

2・もしかしてこの旅館、壁うすい？

ある夏の日。夕方四時ごろ。

主人公とトワ、小さな旅館に泊まっている。

今日は本来、少し遠くの街まで日帰り旅行する予定であった。

しかしその途中で突然雨に降られ、急遽近くの旅館に宿泊することになったのである。

二人は宿に来てすぐお風呂に入り、主人公は部屋で髪を乾かしている。

一方、トワは先に髪を乾かし終わり、お手洗いにいくついでに宿の人と話をし、戻ってくるところである。

宿は古民家を改造した可愛らしいところだが、部屋は四つしかなく、小さい。

また、お風呂とお手洗いは別で、家庭用のものが建物内にひとつあるだけである。

さらに、泊まること自体急なので、素泊まり。

つまり、雰囲気は良いが『だいたい民家』なのであった。

主人公、部屋でトワを待っている。

トワは廊下を歩いている。

SE1…外の環境音。かすかに雨の音が聞こえる

【頭から流す。 5秒ほど流してからSE2。】

その後、音量ごく小さめにしてトラック終了まで流し続ける】

SE2…部屋の外から、トワが木の床を歩く足音。だんだん近づいてくる

【頭から流す。 5秒ほど流してからSE3】

SE3…トワがドアをノックする音

【すべて流す】

SE4…主人公がドアを開けようと、立ち上がる音

【頭から流す。 0―5秒ほどまで流す。】

SE5…主人公がドアへ向かって歩いていく音

【頭から流す。 0―5秒ほどまで流す】

SE6…主人公がドアを開錠し、扉を開ける音

【すべて流す】

●中央

「【は】にアクセント。【は】あゝい♡」という感じで」

はゝい、ただいま戻りましたあ♡

見て下さい。お宿のおばさまに♡ お茶とお菓子いただいちゃいました♡

飲みましょ食べましょ♡」

〈主人公〉

「わあゝ！ 嬉しいね！ 飲もう！ 食べよう！」

SE7

…トワが扉を閉める音

【すべて流す】

SE8

…トワが扉を施錠する音

【すべて流す。音量ごく小さめに】

トワ、主人公が髪を乾かし終わっているのに気づく。

●中央

「あ♡

アナタも髪乾かすの、終わったんですね♡

●中央

至近距離

【近づいて髪の毛の匂いをかく】

すんすん♡ いい匂い♡ もうすっかりあったまって♡ ほこほこですね♡

【かなり安堵して】

よかったあゝ♡

●中央

至近距離

【髪にキスする】

ちゅ♡」

SE9

…トワと主人公が部屋の奥へ入ってくる足音

【SE5と同じ音。途中から流す。6―11秒ほどまで流す】

SE10

…主人公がテーブルにお茶とお菓子を置く音

【頭から流す。最初の『コン』のみ流す。】

SE11

…主人公が畳に腰掛ける音

【SE 4と同じ音。途中から流す。9—15秒ほどまで流す】

SE 1 2 …主人公がお茶を注ぐ音

【すべて流す】

●中央

「主人公がお茶を注いでくれているのを見て。『ありがとうございます♥』の『ます』を上げる」

あ♥ありがとうございます、ます♥

SE 1 3 …トワが床に腰掛ける音

【SE 4、1 1と同じ音。途中から流す。20—23秒ほどまで流す】

●中央

「お茶を飲んで（飲むふりの演技でOKです）」

んん……おいし♥

【少し間を開けて。一息ついてから話す】

にしてもお。まさか急に降られるとは思いませんでしたよねえ！

夏の天気は変わりやすいと言いますがあ。

あつという間に全身びしょ濡れになるほどの雨とか、トワビックリですう。

【手際よくこの宿を見つけた主人公のことが誇らしくてたまらない。ここからだんだんテンションが上がっていく】

でもアナタがすぐにここを見つけてくれたおかげで♥

トワ達は難を逃れました♥

やっぱり持つべきものは♥

お出かけプロデュース力とネット検索力の高い奥さん♥ ですね♥

●中央 至近距離

【前髪にキスする】

ちゅ♥

●中央

それにここ。古民家を改造して作られたそうでえ。

小さめですけど可愛くて雰囲気ある建物で詳しい♥

本来日帰りだった夏のラブラブ田舎小旅行に。

『雷雨というハプニングにより急遽宿泊』♥

という素敵な思い出が追加されちゃったと思うと♥

トワだんだん♥ 『雨、やるじゃ〜ん♥』って気持ちになってきました〜♥

SE14

…トワが湯呑をテーブルに置く音

【頭から流す。0―1秒ほどまでの『コトン』のみ流す】

●中央

【ここ一度落ち着く】

そうだ。

さっきお宿のおばさまに聞いたんですけど。

夕ご飯はさっき通った海鮮丼の店がオススメだそうです♥

傘も貸してもらえるそうなんで♥ 一休みしたら！ 行ってみませんかあ？」

〈主人公〉

「うん！ いいね、行こう！ 楽しみだね」

●中央

「やったあ♥ サーモン♥ いくら♥ うくに♥ 楽しみですう♥

●中央 至近距離

【主人公の髪の毛の匂いをうっとりとかぐ】

ふふ♥ いい匂い♥

【額に軽くキスする】

ちゅ♥

いつもと違うシャンプーのアナタ。新鮮でトワときめいちゃいます♥

【頬に軽くキスする】

ちゅ♥ お宿探す時も。

すっごく手際よくてかっこよかったですしい♥

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥

トワ、気持ちが高まり、主人公に抱きつく。

SE15

…トワが主人公に『がばっ！』と抱きつく音

【頭から流す。0―4秒ほどまで流す】

●左 至近距離

「テンションが上がり『好き好き』『大好き』が赤ちゃん言葉になる」

もお、しゅきしゅき♡ だいしゅき♡

●中央 至近距離

【もう一度唇に軽くキスする】

ちゅ♡

【軽く、触れるだけのキスを3回する】

ん♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

【*30秒* ほどキスする。ここから舌を入れる深いキスになる】

れる♡ ん…………♡ ちゅ♡ ちゅっ…………ちゅるっ…………じゅるっ…………ちゅっ♡ ちゅばっ

…………れるっ♡ ちゅるるっ♡ ちゅちゅっ♡

【*7秒* ほどかけて呼吸を整える】

はぁ…………はぁ…………はぁ…………。

ふふ♡ 可愛い♡ お顔とろとろになっちゃいましたね♡

【もう一度唇に軽くキスする】

ちゅ♡

●右 ささやく

【ささやく】

ねえ♡ おっぱいも触ってほしくなってきたちゃいました？」

〈主人公〉

「うん…………♡」

●右

【嬉しくてたまらない】

ふふ♡

●右 ささやく

【わざとゆっくりささやく】

じゃあ♡ 次は、もみもみしながらちゅーしようね♡「

SE16

…トワが主人公の胸を触る音

【すべて流す。音量やや小さめに】

●中央 至近距離

【*15秒* ほどキスする。最初から舌を入れる深いキスになる】

んくっ…………♡ ちゅっ♡ ちゅっ…………ちゅっ♡ ちゅるるっ♡ じゅるっ…………ちゅ♡

【＊7秒＊ ほどかけて呼吸を整える】

はぁ……はぁ……ふふ♥ きもちいの？ 可愛い♥

【心底嬉しそうに、ゆっくりと】

アナタがトワの奥さんでえ。トワ、ほんとに幸せ♡

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥

【少し間を置いてから。声がちよつと意地悪になる】

……でもおトワ的にはぁ。

実は。ちよつとツツコミたいところもあるんですよえ？」

〈主人公〉

「……えっほ な、何かなあ？」

トワ、言いながら、昼間の出来事を思い出している。

先ほど、主人公がこの宿を探すためにスマホを開いた瞬間、スマホのブラウザ内に、主人公が昔好きだった人のSNSのページがタブに残っていたのを目にしたのである。

トワ、今夜はぜひこれをネタにおしおきをしたい。

『だが、普通にやってもつまらない。何かネタはないか……？』と思ったところ、隣の部屋の利用することを思いつく。

●中央 至近距離

【「ちよつと意地悪に」

ふふ？ 心当たり。あるでしょお？

【「ゆっくりささやく」

さっきアナタがスマホ動かす時♥ トワ見えちゃったんですよ？ アナタが……」

トワ、ここで急に黙る。

耳を澄ます演技をする。

5秒ほど間。

●中央 至近距離

【『「ん？ 何か聞こえるぞ？」という感じで」

「ん？ なんか、

【「ひそひそ声になる。思わず話すボリュームが下がる」
声聞こえませんか？」

5秒ほど間。

別に何も聞こえないが、主人公はトワの言葉を信じかけている。

〈主人公〉

「……えっ？ そうかなあ？ わたしには何も聞こえないけど……」

●中央 至近距離

「え〜？ 聞こえますよお。」

【ひそひそ声になる】

これって。お隣のお部屋の声です？」

5秒ほど間。

やはり別に何も聞こえない。しかし、主人公は完全に信じ始めている。

〈主人公〉

「……そう言われてみれば、何か聞こえるような気がする。かも……？」

【「まだひそひそ声。『こんなのってアリです〜』と驚いている】

ねえ！ 話し声聞こえますよねえ？ か。壁。薄すぎでは？

ここ、めっちゃお安くて見た目もお店の方もいい感じですけど、それだけが弱点的な？

【わざとらしく主人公をあおる】

も、もしおっきな声で話しちゃったら。全部聞こえちゃうやつです〜？」

5秒ほど間。

トワ、完全に嘘なのだが、主人公がすっかり信じ切っているのが面白い。同時に『まあ、このくらいの意地悪は許されるだろう……』と思っている。

一方主人公は『全体にいい感じな割に宿泊代が安かったのは、こういうことだったのかも……』と納得し始めている。

もちろん、物音など、最初から一切していない。そもそも、隣の部屋に宿泊客はいない。

〈主人公〉

「あわわ……意外な弱点だね。お隣のご迷惑にならないように、静かにしなきゃだね」

トワ、耳を澄ます。

●中央 至近距離

「耳を澄ましている」

ふむう。

【少し間を置いてから。悪だくみする演技をする】

ふくん？ 考えようによつては♡ こういうのもアリですね♡

【前髪にキスする】

ちゅ♡

〈主人公〉

「ト、トワちゃん」

主人公、驚く。たった今『静かにしようね』と言ったばかりなのに、トワはまるで意に介さず、再びえっちモードに入りつつあるからである。

●中央 至近距離

「上機嫌で」

そうだ。話がまだ途中でしたね♡

●右 ※マークまでささやく

【ささやく】

さつきトワ♡ チラっと見えちゃったんですよ？

【声のトーンは変わらないが、完全に怒っている】

アナタまた♡ かつてアナタが愛したあの女のSNS♡ 見てたでしょ♡ ※

●中央 至近距離

ブラウザのタブに残してましたよね♡

トワ、呆れてはいるが、すでに『主人公とはそういうもの』と理解している。

むしろ、主人公の唯一どうにもならない欠点が『もう会える可能性もなさそうな相手がいまだに気にしている』ということならば、むしろそれはラッキーなのではと考え始めている。その他は、トワ的にほぼ気になるところナシだし。

ならば今後は『あの女』を二人のえっちライフのダシにしてやろうと思い始めている。なので、あまり怒っていない。

〈主人公〉

「あうあうあ……。」「ごめんなさい……。どうしても気になって……」

●中央 至近距離

【わざとらしく呆れて。あまり非難する雰囲気にならないように】

はあく。見ても心濁るだけなのに何で見ますかね？

【甘ったるくからかう】

アナタってば♥ どこまでドMちゃんなんですか？

【わざとらしく『よよよ……』と悲しんでいる演技をする】

トワというものがありながらあつ。ぐっすん！

〈主人公〉

「本当にごめんなさい……。言い訳はありません……」

●中央 至近距離

【『も・お！』を、ゆっくり、強調して言う】

も・お！ これはお仕置きしかないですよね？

〈主人公〉

「へー あ、あのトワちゃん……」

おしおきは受けます。受けるけど……。

その……ここではちよつと……」

●中央 至近距離

【わざと意地悪する】

ふくん？ ここじややあなの？

じゃあ♥ お隣の部屋だけじゃなく廊下にも聞こえるように♥

入り口の方へ移動しますう？」

〈主人公〉

「あつ。だつ、だめえ……。♥」

トワ、主人公が『ダメ』と言いつつ、完全にその気なのに気づいている。

『怒られてるのに、アナタってばつくづくド変態。ていうかもしかして、おしおきされたくてわざとタブ残してました？』と思い始める。

『であればもはや、おしおきえっちしない手はない♥』と考える。

●右 ささやく

【ささやく】

じゃあここでお仕置きですね〜♥

●中央 至近距離

【唇に軽くキスする】

ちゅ♥

とくっても壁の薄いこの部屋で♥ バレないように♥

ラブラブひそひそお仕置きえっちしましそうですね♥

●右 セリフ終わります〜ささやく

【早口で、意地悪にささやく】

だってもうしたくでしょうがないでしょ？ アナタすっかり身体熱くなって♥ お目目とろくんってなってますよ♥

【『あんあん、いくいく』をゆっくり、わざといやらしい言い方で言う】

おうちにいるときみたいにな♥ いっぱいあんあん、いくいくさせてあげますからね♥
ふふ♥「

ここでフェードアウトして、次のトラックへ。